

<主催者挨拶>

福井俊彦 キャノングローバル戦略研究所理事長

みなさんこんにちは。わたくしどものシンポジウムによくお越しくございました。誠にありがとうございます。

今日はこのシンポジウムのために、海外からヨハン・アルスタッドさん、ジェームス・クラスカさんにお越しいただいております。国内からは、谷口先生、高島先生、古庄先生にお越しいただきました。そして当研究所からは、今日のシンポジウムのメジャープレイヤーである上之門研究員、経済の側面から小林研究主幹、地政学的リスクの側面からは宮家研究主幹が強力にサポートさせていただきます。ご承知のとおり、キャノングローバル戦略研究所は2009年の春から立ち上げまして、ようやく姿かたちが整ってまいりました。研究所の研究対象としては、三つの柱として一つはマクロ経済の問題、二番目には地球環境問題、三つ目は地政学的リスクへの対応を意識しておりますが、今日のシンポジウムは、このうち第二のテーマ、資源・エネルギー戦略に深く絡む問題として捉えていきたいと考えております。それに加えて、第三のテーマ、地政学的リスクへの側面というのも絡めようということになっております。

日本は一貫して資源を持たざる国という立場ですが、我々にとって主要命題である資源・エネルギーの原単位の向上に加えて、エネルギー自給率の向上に今後もっと力をいれていかなければなりません。再生可能エネルギーと原子力エネルギーの一層の活用ということが中心になると思いますけれども、我々はこれに加えて日本の課題として当然行きあたるであろう海底資源開発に焦点を当てて、シンポジウムを開催させて頂くことになりました。この領域につきましても、我識者の皆さま方すでにご承知のとおり、我が国におきましてもこの方向を目指した動きはすでに始まっており、2007年海洋基本法制定、翌年の2008年に海洋基本計画が策定され、それらを受けて海洋エネルギー資源開発計画も政府において策定済みでございます。実際には、その目指すところとの距離感がまだ非常に大きく、海洋産業の基盤は我が国においてはまだ無いに等しいという状況でございます。今後に残された非常に大きな課題でございます。世界の多くの国々の状況を見ますと、お隣の中国を含め、海洋開発、海洋産業化を重点的に進めている例が少ないわけでございます。そうした諸国の例にしっかりと学びながら、我が国に独自の戦略をこの分野において、確立していかなければならないと考えております。

先ほど第三のテーマ、地政学的リスクを絡めると申し上げましたけれども、これは必然的に絡んでくる問題だと考えております。排他的経済水域の境界における隣接国の軍事力の強化、その他いろいろな角度から見まして、海洋開発を行おうとする場合にその安全保障に対する脅威の高まりは避けて通れない問題でございます。地政学的リスクに対する感覚が非常に鈍い我が国の場合、この問題は後まわしにせずに、これからは、経済の問題を考えるにしても、常に同時並行的に地政学的リスクにいかにかに備えるかということを考えなければならない段階にすでに達していると思っております。その意味で今日のコンファレン

スも、一部、二部と二階建ての構成としているわけでございます。

まだまだ我々自身も未熟な段階でございます。今日この場で、決定的なソリューションをお示しするというところまでは行かないと思っておりますけれども、今日のコンファレンスを機会に皆さま方それぞれにこの問題について、一層強いご関心を持って頂けるようになれば幸いです。後ほどまた、皆さま方から忌憚のないご批判、ご意見を頂戴したいと思っております。よろしくお願い申し上げます。

以上